



## 2026 AUTOBACS SUPER GT RD.2 FUJI GT 3HOURS RACE REPORT



### SUPER GT 2026 第2戦 富士3Hours レースレポート

開催日:公式予選 5月3日(日)／決勝 5月4日(月)  
開催地:静岡県 富士スピードウェイ

#### <予選レポート>

今季からBMW M4 GT3 EVOを投入し、タイヤもヨコハマからミシュランへと変更し、新たなパッケージで挑んでいる9号車「PACIFIC ウマ娘 NAC BMW」。その初陣となった第1戦岡山では予選Q2進出を決め、決勝レースでは終盤頃まで追い上げを図り順位を上げていたものの、以降はタイヤの摩耗によるペースに苦戦し、23位と悔しさが残る結果に。ただ、実際にレースを戦い抜き、しっかりと完走を果たしたことで、次戦へとつながる収穫の多い1戦でもあった。そんな開幕戦から1カ月、5月3～4日に開催された「2026 AUTOBACS SUPER GT Round2 FUJI GT 3HOURS RACE GW SPECIAL」へと挑んだ。

今大会は3時間と長丁場のレースということから、昨年と同様に富林勇佑選手と藤原優汰選手に加え、新加入の久保凜太郎選手が今季初のエントリー。3名体制で臨んだ第2戦富士大会、舞台となる富士スピードウェイは、開幕前の公式テストでも走行機会があり、セッションを2番手で終えるなどポテンシャルの高さを示していたサーキットだ。チームはその際に得たデータに加え、開幕戦で浮き彫りとなった課題の改善に向けて入念に準備を進め、万全の体制でレースウィークに臨んだ。5月3日(日)は朝から五月晴れに恵まれ、気温22度／路面温度34度のドライコンディションのもと、公式練習がスタートした。

まずは富林選手が乗り込み、連続周回でマシンの状態を確認した後、アウトインを繰り返しながら車体バランスの最適化を図る。事前テストおよび前戦の岡山大会で見えた課題を踏まえ、予

選と決勝を見据えた多角的なセットアップ変更を実施していった。富林選手は5周目に1分38秒350の自己ベストを記録。その後も安定したペースで周回を重ね、計12ラップを消化し、マシンの方向性を固めていく。続いては、久保選手が乗り込んだ。本戦では初ドライブとなるが、スーパーGT参戦は実に6年ぶり。今大会に向けてはシミュレーターを活用し、入念な準備を重ねて今大会に臨んでいた。FCY練習とGT300の占有走行の枠も使用し、計14ラップを周回して自身の感覚を取り戻しつつ、9号車「PACIFIC ウマ娘 NAC BMW」の理解度を深めるための時間に充てた。

ドライブした久保選手は「練習走行からサーキットサファリまで、時間を最大限に使用して確認を行い、試したことは全ていい方向に向かったので、とても良かったです。クルマも課題だったところが改善して速くなりましたし、コーナリング中のフィーリングも非常に良好です」とコメント。序盤に走行した富林選手も「クルマとしてはすごく進歩していますし、いろいろトライしたことがしっかりと実ったフリー走行でした」と、両ドライバーともに手応えを感じる内容となった。限られた時間ではあったものの、トライアンドエラーを続けた結果、予選と決勝に向けて良い方向性を掴むことができ、充実したセッションとなった。

続く公式予選は、14時20分からスタート。開始前にはやや風が強まり、気温21度／路面温度27度と公式練習の時よりもやや低いコンディションで始まった。Q1A組に出走した9号車「PACIFIC ウマ娘 NAC BMW」は、開幕戦と同様に富林選手にステアリングを託した。しっかりとタイヤに熱を入れて4周目には1分36秒908をマークすると、さらに連続となる最終アタックでは1分36秒729まで短縮させることに成功。一時はQ2進出圏内となる6番手につけていたものの、終盤にライバル勢がタイムを更新。最終的には10番手となり、わずか0.287秒差でQ2進出を逃してしまった。

本来であれば開幕戦同様、中団グループから決勝レースに臨むポジションであったが、予選後の車検において「指定外燃料の使用」が判明。これにより予選タイムはすべて抹消というペナルティが科されることとなった。原因は前戦走行時の残留燃料が意図せず混在し、規定成分との差異が生じたことによるもので、あってはならないミスであった。この結果、最後尾からのスタートが決定。チーム、ドライバーにとって極めて悔しい結果となった。今回の事態を重く受け止め、チームは再発防止策の徹底を図り、今後同様のミスを二度と起こさないよう努めていく。



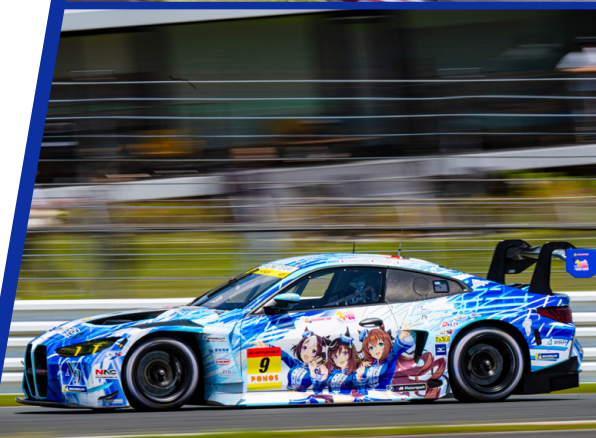
## <決勝レポート>

快晴となった予選日は夕刻から下り坂となり、決勝日の5月4日(月)の朝方まで強い雨と風に見舞われた。しかし、レース前には天候も回復し、明るい日差しが差し込むドライコンディションへと変化。気温24度/路面温度43度というコンディションのもと、決勝レースがスタートした。

最後尾からの追い上げを強いられた9号車「PACIFIC ウマ娘 NAC BMW」は、藤原選手がスタートドライバーを担当。前日はサーキットサファリでの走行に限られ、十分な周回ではできなかったものの、これまでの経験を活かし、決勝レースでは好発進を決めた。ミシュランタイヤの優れたウォームアップ性能を武器に、オープニングラップでは29番手から26番手へ一気にポジションアップ。さらに翌周もひとつ順位を上げ、序盤から積極的な追い上げを見せた。

流れを掴んだ藤原選手は、その後も安定したペースで周回を重ねる。8周目には一時的にポジションを落とす場面もあったが、その後は順位をキープしつつ堅実なラップを刻んでいった。レースは徐々にタイヤマネジメントが重要となる展開となり、摩耗に苦しむ場面も見られたが、チームは戦略的に早めのピットインを選択。23周目にピットへと入り、富林選手へとドライバー交代を行った。スムーズな作業で送り出すと、猛プッシュを続ける。各車のピットインのタイミングも味方に、ポジションアップを果たし、全体が1度目のピットを終えた時点では21番手まで順位を上げることに成功していた。

残り時間1時間30を前に、FCY(フルコースイェロー)が導入される展開とはなったが、それ以降は赤旗などもなくクリーンな状態でレースが進んでいく。ロングランとなった富林選手は、自身のステイントで終盤はタイヤが摩耗し、厳しい状態ではあったものの、しっかりと順位をキープさせたまま走り切り、63周目にピットへとマシンを運ぶ。残り1時間10分を切ったタイミングで、久保選手が乗り込み、最終ステイントへと向かった。短いながらも前日の走



行での感覚を頼りに、慎重かつ確実なレース運びで周回を重ねていく。

ここまで9号車「PACIFIC ウマ娘 NAC BMW」は、ドライバーの粘り強い追い上げと、的確な戦略、そしてスムーズなピット作業により着実にポジションを回復。レース中盤には23番手まで順位を押し上げていた。残り20分を切る頃には、上位車両が1台リタイアしたことで21番手に浮上。最終盤に向けて、久保選手はさらに気を引き締め、ラストスパートをかける。自身にとって久しぶりのスーパーGTでのレースとなったが、ミスなくしっかりと最後まで走り切って22位でチェッカーを受け、無事に9号車「PACIFIC ウマ娘 NAC BMW」をチームの元へと運んだ。

ポイント獲得には届かなかったものの、22位という結果で3時間のレースを戦い抜いた。予選での不本意な結果を受けながらも、決勝ではその挽回を目指し、チーム一丸となって最後まで戦い抜いた。本来のポテンシャルを十分に発揮しきれなかった点は課題として残るものの、最後尾スタートから着実に追い上げを見せたことは大きな収穫と言える。また、中日本自動車短期大学（NAC）のメカニック陣によるミスのないピット作業も、今回のレース結果を支える重要な要素となったと言えるだろう。

シーズン3戦目はマレーシア大会が予定されていたが、開催延期となったため、次回のSUPER GTはシリーズ第4戦、8月1～2日の富士スピードウェイにて開催される予定だ。今回と同様の舞台で戦う第4戦富士大会、今回の経験を最大限に活かし、次戦こそはポイント獲得に繋げる入りを見せたいところ。多くのファンにその進化した走りを届けるべく、チームは引き続きチーム一丸となって万全の準備を進めていく。



# COMMENT



総監督 小林弘和

今大会も多くのご声援を承りありがとうございました。まず初めに、予選において前戦走行時の残留燃料が意図せず混在していたことに関しまして、深くお詫び申し上げます。レースを戦う上であってはならないことです。このことを重く受け止め、チームの体制をより強化して再発防止に務め、次戦以降はさらにひとつでも上を目指してチーム一丸となって全力で戦っていく所存です。今回は富林選手と藤原選手に加えて、久保選手の3名体制で長丁場の3時間レースを戦い抜き、3人各々が力強い走り高いパフォーマンスを発揮してくれたことにより、22位まで追上げが叶いました。望んでいたリザルトではありませんでしたが、今回の経験を活かして次戦以降にしっかりと繋げて参ります。チーム一同、万全の準備を進めてまいりますので、引き続き温かいご声援を賜りますようお願いいたします。



富林勇佑 選手

練習走行ではタイムとしては残っていませんが、セットアップを進めていく過程で試した様々なことがしっかりと実った走行時間でした。今まで見えていなかった部分が見えたので、テストの時と比べるとセットアップとしてはとても良くなっていますし、クルマのレベルとも上がっていると思います。決勝では藤原選手がうまく順位を上げてくれたので、僕のスティントでは後方を引き離すことができました。ただ、途中からタイヤのグリップ感が急激に落ちてしまい、とても厳しかったというのが正直なところです。今回は、セットアップもタイヤも含めて様々なことを活かすことができましたし、確認することもできました。今以上に、最後までしっかり走りきれぬタイヤの選択とセットアップを煮詰め、次戦に向けて準備をしていきたいです。



藤原優汰 選手

初日は走行時間が少ない中で決勝を迎えることになりましたが、富林選手や久保選手にサポートしていただいたので、状況を確認した状態で決勝レースはしっかりと走ることができました。スタートから3周はミシュランタイヤの強さやウォームアップ性能の速さを実感し、順位を上げていけるという自信がありましたが、周回を重ねるうちにタイヤの摩耗を感じたので、セーブしながら安定したペースで走り切ることに専念しました。次戦は3ヶ月空いて、今回と同様の富士でのレースとなります。今回は決勝で次戦に繋がるいいデータを取集できたと思っているので、それをしっかりと活かして戦いたいです。



久保凜太郎 選手

初日はこれだけは絶対に直さないといけないという課題が明確にあった中で、練習走行の時間を最大限に使った甲斐があり、コーナーを曲がる時もフィーリングはとても良くなりました。車体バランスは上位で戦えそうな雰囲気を持っていますが、それを発揮できず、タイムに残せていないのが現状です。そんな中、予選でのことはあってはならないミスですし、テストが良かっただけにそこで落としてしまったのはとても残念でした。ですが、そのことがきっかけとなり、チーム全体の気持ちがさらに引き締まった状態で決勝レースを戦えたことは良かったです。僕にとっては約6年ぶりのSUPER GTで、混戦の中で僕の動きが悪かったりと、判断を間違えてしまったのは自身の反省点です。今回は3人とも違うコンパウンドのタイヤを使用したことで、色々見えてきたこともあるので、次戦以降に向けて、僕もしっかりと準備を進めていきます。



## PARTNER



© Cygames, Inc.



Motorsport



## SPONSOR

